

早期大腸がん 9割発見法

島津製作所（京都市）が開発した高精度の質量分析計を使い、早期の大腸がんを9割以上の高い確率で見できる検査方法を開発したと、神戸大や同社などの研究チームが発表しました。年内にも京都市内の病院で一般の受診者に試験運用して、有効性を確かめる。

研究チームによると、質量分析計は、同社独自の技術で物質を100



質量分析計（左）
を使って行う検査

血液中の物質量を分析

0兆分の1程度のレベルまで高い精度で計測できる。この分析計で血液検査を行い、大腸がんの指標となるアミノ酸など8種類の物質が含まれている量を分析する。分析は数滴の血液で可能という。

早期の大腸がん患者300人に検査したところ、9割を超える精度で早期がんを確認できた。同時に血液中の「腫瘍マーカー」を使う従来の血液検査も実施したところ、発見率は1〜2割にとどまったという。

試験運用では、京都市の病院で受診者から採血し、同社の子会社にある分析計で検査。がんの疑いがあれば病院で内視鏡を使って詳しく再検査する。